2015年度 土を考える会 夏期研修会 中国四国


開会挨拶をする藪内孝博会長

▶2015年7月28日、29日
（愛媛県大洲市・伊予市）

農業経営五年の計 将来を見据えた「お金」の使い方

7月28、29日に中国四国土を考える会の夏期研修会が愛媛県大洲市、伊予市で開催された。中国四国各県より農業経営者らが駆けつけ、関係者も含めて40名弱が一同に会した。

今回のテーマは経営管理。実践編は、大洲市でダイナミックな農業経営をしている農事組合法人たいよう農園を視察し、代表理事の本田和也氏の経営事例の発表を聞いた。そして、北海道の元改良普及員で本誌連載でもお馴染みの齊藤義崇氏が講義編を担当し、参加者らを交えたディスカッションへと展開した。


参加者らを圧倒した、たいよう農園の本田和也氏

ダイナミックな投資で経営の形を先に作るやり方

今回の集合場所は、たいよう農園のタマネギ選別施設。炎天下のもと、藪内孝博会長の挨拶で開会した。

たいよう農園は、養豚業を営んでいる本田和也氏が、100億円規模の投資をした、キャベツとタマネギなど露地野菜の大量生産型事業体である。社名とともに掲げられたフレーズは「国を耕す会社です！」。2006年に設立して以来9年で自社生産、委託生産、加工の三本柱を立ち上げ、生産、選別調製、加工、予冷（保存）の全工程を自前でやりきる体制を整えた。現在、社員50名、資本金は9000万円。

生産部長の井上翔一郎氏の案内で、施設を視察した。視察当日は収穫されたタマネギが大量に集まっていた。大型コンテナに山積みされたタマネギは大型の送風機で風乾する。次に乾燥したタマネギは選別・調製され、カット野菜工場に運ばれる。当初導入した加工機では能力が間に合わず、6カ月で1億円をかけて現在のカット野菜施設を立ち上げた。処理能力は1日36t。

さらに500mほど離れた場所にある大型冷蔵施設へ。3棟の冷蔵庫は1～2℃に保たれ、2000コンテナを収納できる規模である。


経営管理の考え方をわかりやすく解説した、齊藤義崇氏


講義会場の様子

講演会場に移動した後、本田氏の経営マインドを聞いた。地元の高校卒業後に上京。21歳で愛媛に戻り、実家に就農したものの、ミカン農家は儲からないと判断し、養豚を始めたところから、現在は、7つの法人で代表をつとめている。

ビジネスの「普通」を農業の「普通」にできないかという原点、一度発生した問題は二度と起こらないように徹底的に対策を施すなど、ストイックな経営スタイルが紹介された。経営管理に基づく知識と将来像を描き、着実にそのゴールを目指している、実直でありながらもダイナミック過ぎる姿に参加者らは圧倒されていた。



訓子府工業のタマネギ選別ラインを導入し、選別・調製作業を行なっている



オニオンピッカーは北海道仕様のものを導入している。大量生産には欠かせない



収穫したタマネギはコンテナを重ねて並べられ、送風機から送られる空気によって風乾される



冷蔵庫の内部は１～２℃に保たれ、出荷まで２週間以上予冷される



３棟並ぶ冷蔵施設の全景。物流トラックもPR媒体として有効利用している



１億円を投じて立ち上げたカット野菜施設ライン

経営管理はの基礎は財務諸表の読み方にあり

続いて、講義編の齊藤氏が登壇した。経営管理の基礎をわかりやすい事例を交えて、解説した。特に財務諸表を簡単に読み取り、理解する方法が紹介され、引き続き理解を深めたいという感想が多く聞かれた。

ディスカッションでは、経営管理の認知度を参加者同士で確かめながら、比較的多かった30ha以下の経営でも数字を抑えて、避けがちなお金の話もしっかりしていく必要があるという声が挙がった。最後に参加者全員がこれからの5年でどのような方向性を目指しているのかを自己紹介代わりに話し合い、情報交換会へと場所を移した。

工場の設備投資も農家の経営管理と同じ

翌２日目は㈱井関松山製造所の工場見学へ。年間２万４０００台のトラクターと３万４０００台のエンジンを製造する工場を案内され、参加者らは興味深く眺めていた。

また、今回の視察テーマに沿って、工場の設備投資の考え方について、情報が提供された。

工場で使用する金属加工から旋盤、塗装まで工作機械類は投資計画の中で更新が進められている。財務省によると、減価償却期間は12年、ある調査による実際の更新までの期間は16年という。限られた財源で効率的な投資を行なうためには「できるだけ長く使う」をモットーに掲げて、長く使い続けることが重要。同工場の機械は１日当たりの使用時間にもよるが、20～50年使われ続けている。これを支えているのは、機械を実際に使っているオペレーターによる「自主保全活動」と「専門保全」。各農場でも、導入した機械を長く使い続けるための考え方は同じだ。単なる工場見学では終わらない、中身の濃い研修会となったという感想が聞こえた。



工場見学を終えた参加者一同